

福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年5月15日現在

(専技情報より抜粋)

◇早生水稲（夢つくし、コヒカリ）◇

田植えは平年並で、5月15日までに終了しました(最盛期は4月下旬)。田植後の4月中下旬の低温の影響で、葉先の傷み等がみられましたが、5月上旬からの高温で生育は回復しています。浅水管理で初期生育を確保しましょう。苗の活着を確認し、雑草対策を適期に行いましょう。

◇普通期水稲◇（夢つくし、元気つくし、ヒルカリなど）

6月上中旬植えの播種及び育苗作業が行われており、苗の生育は順調です。

出穂期以降の高温による品質低下を防ぐため、「夢つくし」の田植えは6月上中旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬を中心に行われる見込みです。「元気つくし」の田植えは6月中下旬の見込みです。育苗管理では、いもち病やもみ枯れ細菌病などの病害対策を徹底し、各品種の移植適期を厳守しましょう。

◇麦類◇

現在、登熟後期で、今後、高温が予想されていることから、成熟期は平年より6日早く、収穫は11月下旬播きの大麦・裸麦で5月15日頃、小麦で5月25日頃から始まる見込みです。4月下旬の降雨により、一部で倒伏がみられますが登熟は良好です。穂数は平年並み～やや多く、収量は平年並み～やや多い見込みです。

排水溝の手入れを行い、排水を徹底しましょう。収穫前に、カスノエトウなどの雑草を除去しましょう。また、カントリーエレベーターの荷受け計画を作成し、穀粒水分25%以下で適期に収穫しましょう。

◇イチゴ◇

4番果房は4月末から収穫が増加し、5月上旬の出荷量は平年よりやや多かったです。出荷終了は平年並みの5月中下旬の見込みです。親株の生育は4月下旬の乾燥により土耕ではやや遅いです。

果実の品質低下防止のため、ハウス換気を徹底しましょう。また、収穫が終了した場合は速やかに片づけましょう。親株の炭疽病、ハダニ類等の病害虫対策、肥培管理を徹底しましょう。

◇冬春ナス◇

出荷量は4月下旬から増加し、4月末から5月上旬にピークを迎えました。3月下旬の出荷ピーク後に低下した樹勢が回復しないまま着果負担が増えたため、今後、成り疲れが懸念されます。

一部でうどんこ病が発生、灰色かび病、すすかび病は散見されますが、全体的には病害の発生は少ないです。コナジラミ類が一部で多発していますが、天敵が有効に働いています。成り疲れによる草勢低下により、すすかび病の発生が懸念されます。芽の整理等、着果数抑制により草勢の早期回復を図るとともに病害虫対策を徹底しましょう。また、日焼け果の発生を抑えるため、畝や溝にかん水し、ハウス内湿度を保ちましょう。

◇温州ミカン◇

開花盛期は、平年より3日程度遅く、県南地域では極早生・早生が5月5～7日、普通温州が5月8～9日となりました。着花数は、極早生・早生・普通ともやや多い～多いです。今後、生理落果の状況等によっては、着果過多や次年度の着果不足が懸念されます。

着花が多い園地では、樹勢回復のための葉面散布や早期摘果、次年度結果母枝確保（除葉処理、有葉花摘蕾等）の徹底を図りましょう。

また、着花が少ない園地では、結実確保対策（被さり枝の除去等）を徹底しましょう。

◇カキ◇

開花盛期は、4月の低温により昨年より3～5日程度遅く平年並み（5/10～5/20）です。雌花の着花数は、園地によってばらつきはありますが、平年並です。

摘蕾を早期に完了しましょう。カイガラムシは、発消長に基づき幼虫の発生時期に対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

1～4月の出荷量は、1月の低日照の影響で3月の出荷量が増加しなかったことに加え、4月の単価が緊急事態宣言後に大きく低下しました。そのため下位等級品の出荷を控えた産地もあり、販売金額は大きく減少しました。

秋出し作型の播種、種子冷蔵処理が4月下旬より開始されます。6～7月出荷作型は、梅雨前に灰色かび病対策を徹底しましょう。7～8月定植では、ほ場準備を早めに行い、土壌消毒等確実に実施しましょう。

◇カーネーション◇

4月の単価が緊急事態宣言後に大きく低下し、出荷を控える動きもあり、総出荷量、平均単価とも平年を下回りました。次作の病害虫対策として土壌消毒等を確実に実施しましょう。

◇茶◇

一番茶の摘採は、5月13日時点で、平坦地ではほぼ終了、山間地では5割程度終了しました。4月の出荷量は、4月の低温の影響により摘採が遅れたこと等から、平年より少ないです。5月には持ち直すと予想されます。

ハダニ、チャノキイロアザミウマ、チャトゲコナジラミおよびクワシロカイガラムシの対策を適期に実施しましょう。樹勢の低下した園や芽伸びが悪い園では、一番茶収穫終了後に更新せん定しましょう。

◇畜産◇

和牛枝肉単価は6か月連続で低下し、4月には平成25年2月以来となる1,700円台となりました。緊急事態宣言後の外食需要の低下が大きく影響したものと考えられます。

交雑種見合いの省令価格も4か月連続で下落しました。

豚枝肉価格は、内食需要の活発化により、前年比と過去5年平均比とも110%以上の上昇となりました。

鶏卵価格も内食需要が高まり、前年比118%と上昇しました。

今年度は例年より早い傾向で、最高気温が30℃近い日が多く発生していますので、早めの畜舎暑熱対策をしましょう。また、畜舎内消毒等、農場の衛生管理を徹底しましょう。